

丸山忠男議員



- 「道の駅」について
- 旧料亭「花月楼」の再生活用について
- 長尾山観光交流センターの設置目的と機能について

そのほかの質問
・まちなか誘客について

一般質問

問 招集挨拶で平成32年の春にはオープンしたいと述べられたが、市長の考える道の駅構想とは。

答 勝山市の道の駅は、荒土町松ヶ崎の新しい橋の南側地点との考えを表明した。この道の駅には、食事の提供、地元農林産物及び淡水魚などの販売や観光の産業化の有力な担い手として活用していく。また、まちなか誘客拠点の一つとして魅力を発信していきたい。

問 旧料亭「花月楼」の再生活用について。

答 勝山商工会議所が勝山市観光協会などと策定した勝山まちなか観光戦略で、平成28年4月を指す（仮称）観光まちづくり会社の設立と旧料亭花月楼の再生・活用を2本柱と位置づけている。市は12月補正で勝山商工会議所に対する補助事業を上程し、勝山市版DMOとして（仮称）観光まちづくり会社が、戦略の策定及び中長期の経営計画を策定することで、株主からの出資、金融機関からの融資、公的機関からの補助を担保できるよう支援をしていく。

問 長尾山観光交流センターの設置目的と機能について及び既存物販施設と（仮称）観光まちづくり会社との関係について。

答 同センターは、来園者をまちなか誘客へと結びつけ、中心市街地の賑わい創出を推進することを課題として国の交付金を活用して、観光情報やジオパークの情報提供を行う中心的な拠点施設として今後整備していく予定。なお、現在の物販施設は、29年3月末で運営業者への許可が切れることから、それ以降の運営については勝山市の観光を一元的に担う（仮称）観光まちづくり会社が柔軟な姿勢で関わっていくことが望ましいと考える。なお、（仮称）観光まちづくり会社には、観光に関わる市内事業者こそぞつて参画していただくことを想定しており、現在の運営事業者についても参画していただき、何らかの形で勝山市の観光の産業化を担っていただけている。

松山信裕議員



- 自主財源、資金調達について
- かつやまふるさと検定について

そのほかの質問
・歴史遺産の保存と活用について

一般質問

問 自治体事業の自主財源確保の新たな手法として、クラウドファンディングを活用すべき。

答 行政支援で取組んできた事業（仮称）観光まちづくり会社が資金調達する場合にも有効と考える。議員の質問があった昨年9月議会以来、大きな関心を持っており、旧料亭花月楼の整備をはじめ各種の行政支援事業等に導入できないか検討させている。

問 勝山市での実施について早急に具体的な案を出すよう強く指示した。

答 ふるさと納税のさらなる積極的な活用とPR、また、本市らしい新たな取り組みが必要である。

問 企業版ふるさと納税については、勝山市に支店や営業所のある企業、そして東京勝山会・関西勝山会の方の御協力をいただきながら、勝山市出身、勝山市に縁のある方が経営する企業への積極的なPRに努めていく。また、インターネット上のふるさと納税ポータルサイトからのクレジット決済導入の検討、ふるさと納税の寄附の状況や使途の公表などふるさと納税の本来の趣旨を逸脱しない範囲で制度の充実に努めていく。

問 かつやまふるさと検定をどのように実施するのか。

答 平成28年3月6日の日曜日、午前10時より福祉健康センターすこやかにて実施する。初級編、中級編、専門編恐竜部門と白山平泉寺部門の4つのコースに加え、勝山への興味や関心、愛着心を高めることを目的に、初級編子ども部門を新設して実施する。あわせて、高校生以下は受験料を無料とする。

問 また、市民大学講座と連携して、コース毎にふるさと検定対策講座を実施する予定。

問 勝山市民学芸員の制度を進めていくべき。

答 観光の目的が単に施設や名所を見学するだけでなく、食や地域の人の触れ合いや学びを求め、来訪者が増えてきている中、勝山の魅力を市民自らが語る市民学芸員の制度化に早急に取り組んでいく。

※クラウドファンディングとは：不特定多数の人からインターネット経由で資金を集める行為で「クラウドII群衆」と「資金調達IIファンディング」を組み合わせた造語。